

事業計画書

①団体名	特定非営利活動法人 ぶどうの家わたぼうし
②事業名	演劇手法を用いた要配慮者支援ワークショップ
③テーマ区分	*いずれかにチェックし、指定テーマの場合は番号を記入 <input checked="" type="checkbox"/> 指定テーマ(番号:1) <input type="checkbox"/> 自由テーマ
④補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目(経過措置) <input type="checkbox"/> 4回目(経過措置)
⑤現状及び課題	<p>平成30年7月の西日本豪雨により被災した倉敷市真備町では、死者51名(災害関連死を除く)、このうち45名(約88%)が65歳以上の高齢者である。このような被害を繰り返さないため、逃げ遅れゼロを目指すには、避難行動をとる際に支援が必要となる高齢者等の避難について地域全体で考えていく必要があり、これについては国土交通省高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所により「地域連携型要配慮者マイ・タイムライン」として取り組まれています。しかし、高齢になるほど認知症の罹患リスクが高くなり、認知症を原因とする判断能力の低下等が避難行動を難しくさせてしまう。当法人グループの小規模多機能ホーム利用者であった80代の認知症の女性も豪雨災害の犠牲となり、まちが浸水していく中、近所の方からの「逃げよう。」という声が届かず、自宅に留まり命を落とされた。数日間雨が降り続いた危機的な状況や、近所の方からかけられた言葉も十分に理解できていなかった可能性がある。</p> <p>また、すぐに避難行動を起こさない高齢者や認知症の方には、避難した後の避難所生活の不安も大きく、サポートする側の高齢者や認知症の方への、適切な対話や対応方法がなければ、円滑な避難サポートはできない。</p> <p>「高齢者の避難行動」と「認知症への理解」には、日頃からの地域住民の繋がりが大切であるという共通点があり、いずれも家族、近隣住民等が我が事としてとらえ、理解を深めていく必要がある。</p>
⑥ 事業目的	<p>避難行動について考える時に、逃げようとしなないことを一方的に非難するだけでなく高齢者が持つ「自分が避難することで他人に迷惑をかけたくない。」という気持ちの理解や、認知症の本人が環境の変化などへの不安から避難できなくなっている状況を、周囲の人も理解できるようになる。演劇の手法を用いることで正論のみの一方的な押し付けではなく多様な人々が価値観の違いや置かれている状況を互いに認め合える対話と対応の方法を学ぶことが出来、このことが結果的に円滑で安全な避難サポートや日頃から配慮の必要な人々への支援につながることを、今以上の多くの人に知ってもらおう。</p> <p>昨年度までに4回のワークショップを行い参加者に実施したアンケートからもその効果は明らかになったので、今後はさらに参加者を拡大し、真備町だけでなく他の地域に伝える取り組みにしたい。</p>

⑦ 事業内容	<p>事業項目1</p> <p>※位置づけ（狙い）、内容、受益者（対象者）、実施地域、実施方法など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者」「認知症」を含めた要配慮者への緊急サポートや問題行動への対応方法を、対話を中心にした「演劇ワークショップ」を開催し学ぶ。 ・真備町、倉敷市近郊の多世代の地域住民から広く参加者を募る。 ・講師を奈義町の劇団「OiBokkeShi」を主宰している菅原直樹氏に依頼 ・ワンクール6回を年2回、各30名の参加者をめざす。 ・ワークショップ内容（前年度）は、①価値観の違う人同士の会話から対話を通して新たな価値観を生む②認知症の人の世界感を知り価値観の違いを理解する③避難しないのではなく、できない人の気持ちを理解する④自分たちの被災経験から価値観の異なる人と人との対立場面を考える⑤新たな価値観を生み出す対話を入れた認知症、災害に関する劇を作る⑥自分たちが作った演劇を発表する ・被災について参加者がより身近に感じられるために、初年度は真備でワークショップを開催する。 ・発表会は主に高梁川流域の住民に声をかけ広く参加者を募る。 ・発表会に合わせ、真備復興見学ツアーを開催し参加者が災害について学び防災意識を高める機会を作る。例えば、小田川河川工事風景、被災時の建物、避難機能付き共同住宅、防災タワーなどを回り実際に被災した住民の声を直接聞く。
	<p>事業項目2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅原氏が主宰する奈義町の劇団では認知症の当事者が地域住民の一員として演劇に参加しており、各地の注目を受けている。先進地域の視察を行う。 ・真備町で演劇ワークショップに参加する住民が、「認知症と演劇」のノウハウを学び、それに「防災」の視点を取り入れた取り組みにつなげる。 ・先進的な地域の人たちを真備町に招いて、直接指導を受ける。その様子を広く高梁川流域の住民に見てもらうことで参加者を増やす。 ・真備町で指導を受ける際には、ワークショップの参加者だけでなく、関心のある方々に来ていただき、広くこの活動について知っていただく機会を作る。そのために、この時にも真備復興見学ツアーを行う。 ・ワークショップと視察研修を通じて倉敷市に「MabiBokkeShi」を立ち上げる。
	<p>事業項目3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇ワークショップや、先進地域への視察など、一年間の動画撮影し、次年度の活動につなげる。発表会の寸劇を短編動画にまとめ、報告会を行う。 <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場での開催できない場合は中止とするが、zoomを利用したハイブリットでワークショップや交流会は可能 ・状況にもよるが、実践的に学ぶ実習にもできる。
⑧事業の条件及びアピールポイント	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <p>演劇を切り口にした「認知症」「防災」は、前例のないアプローチの取り組みである。そのためR3年から実験的にワークショップを開催し、参加者へのアンケートでは、認知症をはじめ防災への考え方を「楽しく学べた」と多くの意見をもらえた。「要配慮者」への対話形式の演劇ワークショップは、参加した地域住民同士が対話と交流の楽しさを実感し、笑顔を生み出す。押し付けられることなく、参加者が自ら自分事と</p>

	<p>して考えていくという体験型の新しい方法である。また、被災後に当法人グループが整備した避難機能付き共同住宅や防災タワーは先進事例として注目度も高く見学希望者も多いため、復興見学ツアーを演劇ワークショップと組み合わせることで、さらに参加者が増えることが期待される。</p>
	<p>備中地域への波及効果</p> <p>深刻になりがちな認知症や防災について楽しく学べる。演劇という前例のないアプローチでの参加型ワークショップは、住民主体の自発的な避難行動につながり、マイタイムラインあるいは個別避難計画の作成がすすむ。</p>
	<p>県民局との協働による相乗効果</p> <p>特別な地域だけではないことを、広く広報できる。</p>
	<p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <p>当団体のグループ法人が、西日本災害で被災した介護事業者でもあり、被災を通して地域住民とのつながりを強く感じている。介護・福祉の専門職も多く、真備町でのネットワークも広くあり、地域住民の居場所作りとしての拠点になっている。</p>
⑨今年度に期待される成果・効果 (短期アウトカム)	<p>県民(対象者)</p> <p>自ら演じることによって、防災や認知症を身近に感じ自分事として考えられるようになる。理解が進み知識が増えることで、災害時に行動できる。</p>
	<p>団体</p> <p>より多くの「認知症」と「防災」への理解者が増える。</p>
	<p>備中地域</p> <p>真備の被災経験を、被災経験のない高梁川流域の地域の人たちにも自分事として分かりやすく伝えられる。</p>
⑩将来的に期待される成果・効果 (中・長期アウトカム)	<p>県民(対象者)</p> <p>この活動を継続することにより、対象者が増え、避難知識が増えて災害時に行動を起こせる人が増える。</p>
	<p>団体</p> <p>サロン、公民館、小中高学校などで活動することで、広く地域に知ってもらうことができる。</p>
	<p>備中地域</p> <p>災害の記憶を次世代につなげることができる。避難への知識が増え、災害時に避難行動を起こせる人が増える。</p>
⑪今年度の成果目標と想定している評価指標	<p>成果目標・評価指標1</p> <p>目標：「認知症×防災×演劇」のワークショップの参加者及び発表会の参加者を増やす。 指標：多世代、真備町以外からの参加者（1クール30名）</p>
	<p>成果目標・評価指標2</p> <p>目標：「認知症×防災×演劇」ワークショップの参加者及び発表会の参加者にアンケートを実施し、理解が進んだかどうかを知る。 指標：防災や認知症についての気づきがあり、関心を持って次回のワークショップに参加したいと回答する人が増える。</p>
	<p>成果目標・評価指標3</p> <p>目標：ワークショップと視察研修を、通じて倉敷市に「防災×認知症」演劇クラブ（MabiBokkeShi仮称）を立ち上げる。 指標：報告会に参加した人から、次回ワークショップ参加者がある。</p>
⑫中・長期的な成果目標	<p>撮影動画の編集後は</p> <p>1本目は、演劇クラブ立ち上げまでの動画を作成し、その動画を活用することで、備中地域で防災意識を高め、認知症理解への啓発を促進する。 2本目は、発表会での動画を短編にして、認知症講座、各地の防災研修、個別避難計画作成時、サロン、公民館活動、小中高学校に活用する。</p>

<p>⑬事業展開の 予定</p>	<p>演劇クラブ立ち上げまでの動画を活用することで、真備や倉敷市以外の地域でも同様の取り組みを広げるきっかけとなる。 合わせて、短編動画を活用することで、より多くの人々が防災や認知症について身近な問題としてとらえ、日々の暮らしの中でも考えることができるようになる。 防災は、こどもから高齢者、生きづらさを持つ人々など多様な人に共通の問題であり、避難行動をとりづらい方々の地域連携型マイタイムライン作成につなげたい。 また、若い世代が関心を持ち続けることで、災害の歴史を伝承し自ら率先した避難行動をとれる住民を備中県民局管内に増やしたい。</p>
<p>⑭想定される 役割分担</p>	<p>団体 演劇ワークショップの開催、広報周知、参加者への声掛け、 県民局 広報や周知、大学との連携、市町村への取り組みを働きかける。 案内や参加者募集の声掛けを、倉敷市の地域以外へ声掛けする。 その他の連携・協力団体（組織・団体名： ） 国土交通省、放課後児童サービスホタル、サツキプロジェクトメンバー、ぶどうの家真備、真備事業者連絡会</p>

<記入上の注意事項>

- 1 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 2 「④補助回数」欄の3回目及び4回目は、経過措置規定を適用した上で、令和2年度事業に採択された事業を令和3年度以降も継続実施している場合のみ選択ができます。
- 3 「⑤現状と課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 4 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿(社会、経済、生活、環境等)について、「⑤現状と課題」、受益者(対象者)等を踏まえて記入してください。
- 5 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ(狙い)とともに、内容、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応(代替案の検討、事業縮小、事業中止等)についても併せて記入してください。なお、事業項目数は適宜追加いただいて構いません。
- 6 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性と協働による相乗効果に関すること、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 7 「⑨今年度に期待される成果・効果」欄は、事業実施により得られる今年度の利益や変化等について記入し、「⑩将来的に期待される成果・効果」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化等について記入してください。
- 8 「⑪今年度の成果目標と想定している評価指標」欄は、今年度事業で目指すところ(短期の成果目標)を3つ程度記入し、想定している評価指標(事業価値や目標に対する達成度等を判断するための指標)を記入してください。なお、一次審査を通過した場合には、県民局の事業担当課と協議した上で、具体的な数値目標等を設定していただきます。
- 9 「⑫中・長期的な成果目標」欄は、事業を継続、段階的に拡充するなどし、中・長期的に目指すところ(中長期の成果目標)について、具体的に記入してください。
- 10 「⑬事業展開の予定」欄は、「⑥事業目的」や「⑫中・長期的な成果目標」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 11 「⑭想定される役割分担」欄は、提案団体が果たそうとする役割、備中県民局やその他の連携・協力団体に期待する役割を「⑧事業の条件、アピールポイント」を踏まえ、それぞれ具体的に記入してください。
- 12 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
R5年			
5月	・企画会議①	企画会議①	講師、運営
6月	・企画会議②③ ↓ ・第1回 演劇ワークショップ①②	～⑳ぶどうの家 BRANCH	スタッフ 撮影係
7月	・企画会議④⑤ 演劇ワークショップ③④	第1回演劇ワークショップ①～⑤	参加者 30名
8月	・企画会議⑥ ・第1回 演劇ワークショップ⑤ ・企画会議⑦⑧ ・第1回 演劇ワークショップ発表会 ※ワークショップ①～⑤と発表会参加者にアンケート実施	と発表会ぶどうの家 BRANCH	演者 16名 観客 20名)
9月	・企画会議⑨⑩ ・先進地「奈義町」への視察 ※視察参加者へのアンケート調査	真備町～奈義町へ	貸し切りバス
10月	・		
11月	・企画会議⑪⑫ ・真備復興見学ツアー① ・倉敷市への招聘指導 ・企画会議⑬⑭	真備町内 BRANCH または、公民館	貸し切りバス
12月	・第2回 演劇ワークショップ①②) ・企画会議⑮⑯ ・第2回 演劇ワークショップ③④	第2回演劇ワークショップ①～⑤	参加者 30名
R6年			
1月	・企画会議⑰⑱ ・第2回 演劇ワークショップ⑤ ・真備復興見学ツアー② ・第2回 演劇ワークショップ発表会 ※ワークショップ①～⑤と発表会参加者にアンケート実施	と発表会公民館	貸し切りバス 演者 20名 観客 70名
2月	・企画会議⑲⑳ ・寸劇動画完成報告会	ぶどうの家 BRANCH	参加者 30名

＜記入上の注意事項＞

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。